

令和7年司法試験 合格体験記

令和7年度在学中受験(既修コース) 渡邊 駿

この度、令和7年度の司法試験に合格しました。既修21期の渡邊駿と申します。

私は、他大学の理工学部を卒業後、消防官として勤めたのち、岡山大学大学院法務研究科の既修コースへと進学しました。

元理系、元消防官という法律と無縁な経歴だった事もあり、司法試験合格までの道りは険しいものでした。それでも合格が叶ったのは、法務研究科の教職員の皆様の支えや、これまで切磋琢磨し合えた同期の存在があったからこそです。お世話になった皆様につきましては、本当にありがとうございました。

法律の学習を始めてから入学までの期間が短かったこともあり、ロースクール入学時点での知識量や法的思考力は、司法試験合格に遠く及ばないレベルだったと思います。入学当初は、演習で先生方や同期の発言を理解できない自分に苛立つばかりの日々でした。そんな自分が入学から1年半程の期間で合格までたどり着けたのは、日々反復を怠らなかったからだと考えています。

具体的には、使用するインプット教材や演習教材を各科目で最低限に絞り、これに加えて、ロースクールで学習した内容をひたすら反復していました。今思えば、ロースクールで学んだことを優先して反復したことが、在学中受験の合格に大きく影響したと思っています。

ロースクールの演習では、日々新しい知識に触れることができ、そして、それは試験にも役立つ知識ばかりです。ロースクールで学び得た内容を日頃から反復し、記憶に定着させることができれば、必ず試験当日にも生きてくるはずですが、通常、人は何度覚えても何度も忘れる生き物なので、ロースクールで新しい知識に触れても、復習を怠れば簡単に忘れてしまいます。ですので、これから入学される皆様は、新しい知識を身につけていくと同時に、日々復習することが大切だと意識しておくと思いいます。

もともと、反復が大切と言ったことと矛盾するかもしれませんが、私は司法試験の学習方法に王道はないと考えています。どんな学習方法であれ、最後まで全力でやりきることが最も大切だからです。極端に方向を間違っさえいなければ、自分の信じる勉強方法を信じて走り続けて良いと思います。最後まで自信をもって勉強に励んで下さい。

岡山大学大学院法務研究科で学ばれた皆様が合格致します事を、心より願っております。